

訪問介護ステーション 第30回 運営推進会議議事録

日時	2025年11月 13日 (木)		
場所	第3会議室		
司会	平岩科長	書記	畑岡
出席者	ケアプランセンターつなぐ(高谷・野田)、民生委員(亀上)、ウエル清光会(細川)		
	あいわ診療所長(伊藤)在宅サービスセンター長(巽)、ケアプランセンターあいわ科長(土本)		
	ケアプランセンター奏(大槻)、ベネッセ介護センター(岡本)、千里山病院地域連携室		
	(戸村)緑地地域包括支援センター(村上)ケアハウスはなみずき(藤井)、ケアプランセンターコーケン(端地、南)、司法書士(村井)、虹の里ケアプランセンター(岡田、桂)		

1.参加者紹介

2.2025年度上半期実績報告

●契約者数と訪問件数推移

今年度は9件でスタート5月に1件6月に2件追加で12件となりました。/7月に2件入所され10件となったが8月に新たに3件追加となり13件と今年度に入り最高契約者数となった。9月も13件と維持している。

●訪問件数

契約者数の増加と共に訪問件数も増加。介護は月平均448件昨年度比115.7%、看護は月平均41件昨年度比145.5%となり、看護の訪問件数の増加が顕著となった。

●地区別利用者分布

9月時点で寺内地域が最も多く、次いで庄内幸町となっている。

●介護度別利用者数

要介護2が5件、介護1と介護3が3件ずつ介護4と5が1件ずつとなった。

●随時訪問件数と内容

介護30件看護4件合わせて34回の訪問があった。介護では/排便に関するものが80%あり、夜間・深夜に訪問することも多くなった。その他の訪問では転倒や、ベット上で身体の傾きが直せない、エアコンをつけてほしい、足が痛くなった、ベットから枕が落ちたという理由で連絡があり訪問した。

看護では眠剤の過剰摂取、嘔吐で救急搬送、徐脈・倦怠感や排便困難での訪問があった。

介護の随時訪問件数は昨年度比150%となっており排便コントロールの難しさを継続して感じた。

3.事故報告

- 1 独居でサービス介入時以外はベッド生活をされている方。テレビや照明のリモコン操作は自己にできるが、エアコン室温管理はできない。

9:00からの訪問で日中の気温が高くなる予報であった為、退室前にエアコンをONにした。

設定が23.5℃の表示あり、冷えすぎではいけないと思い、体感28℃へ設定を変更して退室。

13:30に昼のヘルパーが訪問すると、ケアマネジャーと娘様が来訪中で、ケアマネより、入室すると室内が暑くなっており、暖房がついていたので冷房に設定を変更したとの報告を受けた。

対策としてエアコン操作時は適切な設定になっているか、リモコンの画面をしっかりと確認し、冷風・温風などが出ているか動作確認してから退室するとした。

- 2 ケアハウスの利用者で、自室のベッドより座り込みあり、警備員よりコール機が鳴らされていた。

その日コール当番だったオペレーターが入浴中でコールが鳴っていることに気づかなかった。

他の家族も就寝中だった。入浴後、携帯の履歴を確認せずに就寝、翌朝に携帯を確認し事態が発覚した。対処法では特養職員が対応してくれ、ベッドへ移乗。ケガ等もなかった。

朝8時にヘルパーが状態確認のため訪問すると再度転倒したとのことで床で臥床されていた。

ケアハウス職員と2人介助にてベッドへ移乗した。

対策としてはオペレーター当番日は常時携帯を確認し、入浴や就寝中も着信音に気づく箇所に携帯を置くようにする。就寝前も携帯の履歴は必ず確認する。コール機の設定を誰かが出るまで3名にループで鳴るように設定を変更した。

4.事例報告

パワーポイント資料参照

5.地域活動

5/25「おおさか都市緑化フェア」、6/22 BCP検証訓練、8/16.17 寺内祭り

8/31BCP検証訓練イン宝塚、9/5 災害時帰宅困難者訓練、9/21 世界アルツハイマーデー

6.地域交流委員会の活動

子育て支援うりば：毎月第3木曜日開催 ほっと愛がフェ：第3木曜に開催

こども食堂 愛和会こどもひろば：毎月第4火曜に開催 愛和会まごころ弁当：毎週火曜

7.今後の課題

- ① 一体型での運営で看護と連携し定期巡回を行っており、先に看護事業所が入っている場合利用者に必要であっても定期巡回サービスに移行することが難しい。
- ② 夜間の随時訪問が続くと職員の負担にもなる。排便処理で呼ばれることが多く、担当者会議を行うことで、対応を検討できた。早めに話し合うことでより良い定期巡回サービスに繋げていく。
- ③ 定期巡回サービスの単位数が多く、他のサービスを入れると単位数がオーバーし調整が必要となる場合がある。長く在宅生活を続けていくための定期巡回サービスであるため、利用者、家族、関係者への理解を深めていく。

参加者からのご意見・質問と返答
地域包括支援センター：村上
●自身にも母親がおり事例を見て定期巡回のサービスがあったらいいなと思った。うまくスケジュールを組むと安心して環境調整を図ってくれており遠方に住んでいる家族にとっては安心だと感じた。
ケアプランセンターつなぐ：高谷様
●事例を通し毎回なるほどなって思うことがある。事例から色々な工夫や改善がありストーリーやそれまでの経過が見えたのが面白い。現在、定期巡回を利用させてもらっているケースがあり、課題の中に入っていたケースだが一緒に解決しながら利用者さんに喜んでもらえるように手伝えたらと思う。
●色々なケースがありその中にもそれぞれのエピソードがある。その人に合わせたケアを医療職や介護職などが連携していくことが大切だと
在宅サービスセンター：巽
●定期巡回のサービスは、この法人の中でも特に重要なものである。日頃やっていることがニーズに多義に渡る印象というのがあったし、どのサービスもそうだがそれ以上にいろいろなニーズがあって、当然ながらその人その人のエピソードがあるので、ニーズがその人その人にあって当然というところ。だからこそ、しっかりとこういうサービスが地域に必要なんだなというのを改めて感じた。
しっかりと実現していくために地域の専門の機関の方、医療職、介護職の方、地域の機関の方々と連なって初めてこのサービスがしっかりと展開できるんだなというのを身にしみているところである。一方では、定期巡回で夜中来てほしいといったところもあるがそうなると職員の疲労に繋がるし翌日の通常の介護にも影響してくるのでなかなか難しいなというふうにも思っている。だからこそ、しっかりと事業所内や地域、関係機関等々、協議の上、サービスを展開していくように引き続きやっていきたいと思う。
ケアプランセンターあいわ：土本
●事例2例目は関わったケースである。認知症があり在宅復帰は難しいと感じた相談であったがご本人の思いをどうにかできないかと思った時に定期巡回が浮かんだ。施設へ訪問介護からも同行し本人の状況や様子を確認して検討した結果定期巡回サービスを使用した在宅復帰が決まった。導入前から相談できたことでつながったケースだった。
ウエル清光会 豊中エリア長：細川様
●いい事例だった。定期巡回は柔軟に利用できるので必要なサービスだと思う。
夜間の対応の話になったと思うが、自事業所では夜勤者一応いるがほとんど呼び出しはない。ただ、たまに重なって随時訪問の依頼がはいることがあるがどうされているか。
A. あいわの随時訪問の依頼は排便処理が多いので重なった時は、少しだけ待ってもらるように伝え待ってもらっている。緊急なことがあればそちらを優先して訪問する。

ケアプランセンター奏：大槻様
●定期巡回で透析の送り出しはあまり入らないという認識だった。事例の中で透析拒否があったがその後の対応をされていたのが目からウロコだった。また、訪問診療の先生との連携されたケースとかはあるんでしょうか。新規でお願いしづらいのはその辺でして。訪問看護との連携があると難しい時がある。
A. 訪問診療の先生との連携は主に看護師が行っている。また、MCSやザイルなどを利用して報告や連携を行っている。
千里山病院：戸村様
●千里山病院で働きたし一年ぐらいなので、この地域自体もあまり正直まだわかっていない。いろいろ紹介やご案内をいただけるので、最近なるべくこの地域のこういった会議に参加している。地域の方の顔や取り組みも覚えたい。今日のお話は在宅の現場のことがよくわかる具体的なお話をいただけただけで、本当に良かった。家族さんやケアマネさん等から具合が悪くてというご相談の電話があった時に、なるべくすぐ来ていただけるように調整しており医療としては、サポートさせていただきたいと思う。今後もこういう具体的な事例とか教えてほしい。
村井かおる司法書士事務所：村井様
●後見人をしており最高裁の方から本人の意思を尊重し、人権の配慮から本人の意思を尊重せよということをとて厳しく言われるようになった。ただ、後見人としては、本人が在宅を希望していたとしても、選択肢が施設に入るか、このままどうにかするかという形しかなかったが、この事例を拝見して、もう一つを選択肢があるんだと、本人の意思を尊重しながら経過を見ていくという選択肢もあるんだということは、とても希望になった。本日、リーガルサポート大阪豊野ブロックの会議があるのでぜひともこれを今日の会議で報告したいと思う。
ベネッセ介護センター：岡本様
●今日の事例を聞かせていただき、特に施設に入っている方の帰宅願望が強くて定期巡回に移行されるという結果は、こういうケースもあるのだなと思い、改めて勉強させていただいた。私も現在、あいわの定期巡回で要介護5の女性の方をお世話になっている。その方も当初は骨折で入院していて、退院してからお世話になっていたんですけども、その時はまだ定期巡回ではない方の訪問介護での利用だったが状態が変わって一人で身の回りのことをするのも難しくなり、定期巡回の方にさせていただいた。ご本人、ご家族もしんどいかなということもあったが徐々に慣れ現在は状態も落ち着き安定して生活を送れている。
民生委員：亀上様
●月に2回何でも相談・ローラー作戦を行い住民の困っていることや、高齢者の声に耳を傾けるということを行っている。ここ最近、少し前には8050問題が皆さんの耳にも届いていると思うが、そこから時間が経ち今、9060の問題も出てきている。私自身、介護をした際に介護保険制度を利用して皆さんにいろいろお世話になり仕事を辞めずにいる。しかし本当にご家族だけで介護をされて会社を辞められている

